

令和版

## 里ボ通信 番外編Vol.2



2021年9月5日(日)曇り☁

本日、柏市にある『下田の杜』へ見学研修にお伺いしました。里ボの参加者は大人14名、子ども6名で、下田の杜からは理事長の貝山さん、事務局長の廣澤さん、スタッフの高橋さんをご対応してくださいました。

地形の特色である谷津田景観と樹木、山野草、田畑、そこに生息する生き物が織りなす豊かな自然環境と、野馬土手など歴史的な資産が「里山」として親しまれているそうです。

下田の杜(5.4ha)のうち、柏市の公園としてオープンしているのが酒井根下田の森緑地(2.0ha)で、ここは一般公開していますが、今回は通常立入禁止となっている民有地まで見学させていただきました。



湧水が10箇所近くあり、この湧水を集めて田んぼに水を張っているそうです。今年は水量も多く、1日5~6トンもの水が湧いているとのこと。



沢にはカニが。



欂の木。木の幹周りの長さは3m以上！



キンギョツバキ(金魚椿)の葉っぱ。葉っぱの形が面白い。



<絶滅危惧山野草の実生増殖実験>

下田の杜の要保護山野草の実生苗を成長苗になるまでこの場で育て、絶滅および絶滅危惧自生地へ復元するそうです。



←写真だとうまく伝わりませんが、野馬土手です。下田の杜には約200mほど残っているそうです。野馬土手とは、江戸時代に幕府が設置した放牧場から、馬が逃げ出して田畑を荒らさないように作られたものです。

腐葉土を作るため落ち葉を集めているそう。「カブトムシのお布団を作ってあげよう」と話すと、子どもたちは喜んで集めてくれるそうです。

1年目はモグラにカブトムシの幼虫を全部食べられてしまったので、次の年は地中にネットを張ったところ、うまくいったそうです！



## 古民家(まてや)

里山の一つでもある、この古民家(まてや)を残していきたいとのこと。

この中には、昔使用していた農機具たちがありました。ただ飾っているだけでなく、見て、使えるようにと、地域の小学校の子どもたちは、実際にここの農機具を使い、脱穀体験などしているそうです。「小さくてもいいからここでしかできない体験をしてほしい!」とお話されていました。まさに「生きた博物館」です。



↑この中に、かかしが1体います。うまく溶け込んでいますね。



↑昔の農機具がたくさん! 今もこれを使用しているそうです。



←昔、小窓の奥で馬を飼育していて、小窓から顔を出し、餌を食べていたそうです。手前には大きなキロスズメバチの巣がありました。



↑鬼瓦。この「下田」は、この地に300余年地域の歴史と共に歩んだ齋藤家の屋号だそうです。周りの渦巻は、水を表すそうです。



↑田んぼ。ここではもち米を育てているそうです。



↑堆肥づくり。2箇所で作っているそうです。カブトムシの幼虫がここにもたくさんいるそうで、堆肥として使用する場合、幼虫をもう一つの場所へ移動させて、うまく運用しているそうです。



↑バッタ広場。草刈りの時は、虫たちの居場所を守るべく、地上ギリギリを刈るのではなく、10cmは残すそうです。



←↑案内板。活動報告や、子どもたちが作ったポスターなども掲示されていました。

